

# 【小学校4年～6年】避難所生活で私たちができること

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動  
「避難所生活で私たちができること」



道徳  
「勤労、公共の精神」

◆ねらい 周りの人のために自分たちができることを考え、共助について理解することができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導のポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 学校の体育館に避難者が集まったイメージをもつ。 ★ 避難所で気を付けなければならないことは、どんなことでしょうか。 3 避難所での仕事や役割を考える。 ★ 避難所ではどんな仕事や役割がありますか。(資料①) 4 自分たちにできることについて考える。	○教師の支援 ◎指導のポイント ◆評価 ○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○本手引P3～P6を活用し、熊本地震の経験を振り返る。 ○学校生活にも様々な仕事や役割があることを思い出させる。 ○避難所経験のある児童には、頑張ったことを振り返らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             避難所で、自分たちにできることを考えよう。           </div>		
展 開 25 分	(1) 避難所で自分たちができること・できそうなことを考える。 (2) グループでどんなことができそうか、自分の考えやその仕事を考えた理由を話し合う。 (3) グループの代表者が、全体発表をする。 5 新聞記事を読む。(資料②)	○家庭や学校でやっていることを思い出しながら、できそうなことを考える。 ○友だちの意見を尊重し、たずねたいことがあれば質問する。
ま と め 10 分	6 実際に避難所を運営された方の話を聞く。(資料③) (1) インタビュー記事を通して、小学生に期待する行動や役割を紹介する。 (2) 学習のまとめや感想を記入する。 7 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○新聞記事(日本経済新聞 H28.4.22)を読み、避難所での子どもの行動を知る。 ◎無理に仕事をしなくても、子どもにできることがあることを伝える。 ◆避難所での役割や心がけるべきことを理解することができる。また、お互いに助け合う心の和＝「共助」ということを理解している。 【知識・理解】〈ワークシート〉 ◎日頃からの心掛けが災害時の行動につながることをおさえる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

## 活用資料等

- ・避難所生活がイメージできる資料(写真や新聞記事など)
- ・避難所を運営された方のインタビュー記事など



## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

### めあて

避難所で、自分たちにできることを考えよう。

- 1 <sup>ひなんじょ</sup>避難所で気を付けなければいけないことは、どんなことがありますか。

周りの人にめいわくをかけない。

（大きな声を出したり、走り回ったりしない。など）

避難所での約束やルール、きまりを守る。など

- 2 <sup>ひなんじょ</sup>避難所では、どんな仕事や役割があるでしょう。

食事のお世話    ごみの仕分け（分別）    避難所内のそうじ

支援物資の運搬・整理・配付（布）    市役所や自衛隊等との連絡

避難者の健康管理    ボランティアの方との打ち合わせ    など

- 3 自分たちでできること・できそうなことは、どんなことがありますか。

できること、できそうなこと

- ・ ※自分たちにもできそうなことを自由に考えさせたい。

避難所で過ごすから必ず何かをしなくてはいけない、ということではない。

- ・
- ・
- ・

- 4 友だちの考えや<sup>ひなんじょ</sup>避難所を運営された方の話を聞いて、また新聞記事を読んで思ったことを書きましょう。

- ・ 友だちの考えを聞いて、自分にもできそうなことがあることに気付いた。
- ・ 日ごろからあいさつをきちんとする、校内のルールを守るなど心がけたい。
- ・ 地域の行事にあまり参加していないので、地域の方をあまり知らない。  
これから、できるだけ地域の行事に参加したい。など

キーワード：お互いに助け合う心の和 = 「共助(きょうじょ)」

資料

① 「避難所での様々な仕事の一部」



トイレそうじ



体育館のござのごみを落とす



支援物資を運ぶ



ごみの片付け



避難者への健康診断  
や聞き取り



食事のお世話

② 「熊本地震後の新聞記事より」

熊本市東区にある小学校に避難した  
ひなん

七十代の女性は避難所のトイレの前で、  
ひなんじよ

男の子に会った。

小学三年生ぐらいだろうか。両手で  
ヤカンを持っている。何をしているのか  
たず ひなん

尋ねると「避難している人に手を洗っ  
たら あら

てもらおうと思って」との答え。

「こんな小さな子が皆の役に立と  
みな やく

うと、精一杯がんばっている・・・。」  
せいいっぱい

水をかけてもらいながら、涙がこぼれ  
たという。

平成二十八年四月二十二日（金）  
日本経済新聞（春秋）より一部抜粋  
ばっすい

③ 「熊本地震で避難所を運営された人の話」

「避難所を運営された人の話」

学校の体育館などに避難したときは、小学生の皆さんは次のようなことに気を付けて過ごしてほしいです。

- 体育館に避難するのが初めての方に、トイレや水道の場所を案内するなど、自分にできることを見付けてほしい。
- 「人にめいわくをかけない」「あいさつをする」など、日ごろからやっていることをきちんとしてほしい。
- 子どもたちの笑顔や元気が避難している人たちを元気にすることを覚えてほしい。

地域の人へあいさつをしたり、地域の行事に参加したりして、大人の人たちとも日ごろから顔見知りになっておくことも大切です。

